

男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信No.4

事務局 秋田県立養護学校天王みどり学園

発行 平成26年6月30日

平成26年度第1男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会

1 全体会

(1) 横手市の取組の紹介 横手市教育委員会：鎌田 誠先生（課長代理）

- ① 5歳児健康相談の実施 事業主体は横手市健康福祉部健康推進課 全市域において年37回を予定
 - ・目的は、5歳段階で精神・運動発達の状態を確認すること、集団生活への適応等について保護者が気付く機会とすること、発達障害を早期に発見し、医療、療育につなげることである。
 - ・事前に保健師が担当する幼稚園・保育所の幼児の状況について確認した上で、当日は問診→身体計測→集団遊び→発達相談→栄養指導→事後指導→カンファレンスという流れ。事後対応は、横手市自立支援協議会「子ども部会」で情報を共有したり、必要に応じて幼稚園や保育所を訪問したりしている。年2回、医師を交えて検討会も実施している。
- ②横手市自立支援協議会「子ども部会」の設置・運営
 - ・早期からの相談・支援体制や卒業後の移行支援の整備の充実を図るために、横手市自立支援協議会の専門部の一つとして「子ども部会」を設置した。
 - ・月1回程度「子ども部会」を開催して、関係者で情報を共有する。年2回、横手市就学相談会を開催して、早期発見・療育につなげる。
- ③就学サポートファイル「すこやか」の作成
 - ・作成の目的は、支援を必要とする幼児の情報を集約し、関係者で共通理解を図ることと、幼稚園・保育所と小学校の橋渡しをする連携ツールとして活用すること。
 - ・横手市就学相談会で作成希望を確認した上で作業に入る。プロフィール・現在の様子・サポートネット・就学サポートプランの4種類を作成し、幼保・小学校等の関係者で作成会議を開催し、小学校入学後には評価会議を開催する。

(2) 美郷町の取組の紹介 美郷町立六郷小学校：熊谷 康子先生（通級指導教室担当）

- ・昨年度「美郷町教育を考える会」特別支援教育部会に、美郷SENネット連絡協議会を発足させた。特別支援に関する情報交換、支援を必要とする子どものケース検討会、特別支援学校からの情報提供、研修会の報告等を通して、関係機関の連携を強化するとともに、特別支援教育の推進や担当者の指導力の向上を図っている。
- ・構成メンバーは、美郷町教育委員会担当者、認定こども園(千畑なかよし園・六郷わくわく園・仙南すこやか園)、小学校(千畑小・六郷小・仙南小)、美郷中学校、大曲養護学校の特別支援コーディネーター。(昨年度は8回開催)
- ・今年度は、美郷町福祉保健部、地元の高等学校にも働きかけたり、就学指導委員会と連携を図ったりすることを考えている。

— 参加者の感想 —

- ・両市町の教育(個を大事に、個を育てる)が素晴らしい。
- ・両市町の取組は、横の連携ができており、今後本地区の仕組みづくりに役立つ。
- ・横手市の就学サポートファイルを参考にしながら改善・活用したい。
- ・美郷町の取組は、ざっくばらんに話し合う会議で有効だと思った。
- ・行政の動きなくしては、次に進むことが難しいと思う。

2 分科会の内容 「第2回男鹿潟上南秋地区連携協議会に向けて ～市町村単位のネットワークの構築～」

(1) 男鹿市

- ・就学支援シートの活用、小学校のコーディネーターの園訪問、小学校1年担任による園体験(夏季休業中)、保育士と教師の情報交換(2月)等、幼保から小の移行支援を行っている。
- ・中学校から高校については、上がってくる情報が少ない。支援を必要とする生徒に関する情報があれば、あらかじめ対応を考慮できるのだが。
- ・男鹿市でも連携協議会があれば、子どもの情報が途切れない体制が期待できる。
- ・来年1月か2月に、男鹿市の地区別連携協議会を開催したいので、教育委員会と福祉課に、開催と会場の提供をお願いする。

(2) 潟上市

- ・保護者に支援のことを伝えるまでにたくさんの段階を踏まなければならないので、5歳児健診があればいいと思う。
- ・潟上市でも5歳児健診の必要性は感じているが、他の部局とのすり合わせが難しい。
- ・福祉と教育の連携が大切であるが、担当者の負担を考えると、新しいものを立ち上げるのではなく、もともとあるものを活用し、それを発展させていく。
- ・次回の地区別連携協議会については、1月下旬か2月上旬の水曜日以外に昭和庁舎大会議室で開催する。

(3) 南秋地区

- ・高校では、中学校から個別の指導計画や個別の教育支援計画を引き継いだことがないので、子どもの情報がつながる体制づくりが課題である。
- ・南秋地区の障害者自立支援協議を機能させて、多様な事例を相談、共有できる場となることを期待したい。
- ・様々な立場の人たちと一堂に会して情報交換できるので、地区別にできると、関係者がさらにつながっていきける。
- ・次回の連携協議会は、南秋地区1か所ではなく、3町1村ごとに開催する方向で進めていく。

3 アンケート結果（今後の男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会について）

- ・地域ごとの会が定例になっていけばいい。
- ・より多くの関係機関が出席して、話し合いが行われるよう期待したい。
- ・ケース検討もできるとうれしいと思う。
- ・5歳児健診についての説明、情報提供があればよい。
- ・短時間で幼児から大人までの支援を話題にするのは難しいと思った。
- ・この会を利用してというよりも、市役所の中で、各部署がつながる基盤づくりができたと思う。
- ・「地域の子どもは地域で育てる」という意識、自覚をもって取り組んでいきたい。
- ・各方面の連携の大切さが分かり、有意義な会議になることを期待したい。
- ・いかにその地区に合った仕組みをつくって、その仕組みが有効に機能していくことができるか、そうした目標に向かって動いていくとすれば、各地域での開催は一つの動機付けになると思う。ただし、目的を明確化した協議にしたい。

☆次回の開催に向けて、事務局(天王みどり学園)が各市町村の行政機関と連絡を取り合いながら、日程調整をします。必要に応じて、直接訪問して、場所やメンバー、協議のテーマ等について打合せをしたいと考えていますので、よろしくお願ひします。